

短期留学生日本語プログラム 平成16(2004)年度

浮 葉 正 親

1. プログラムの概要

開講期間:

春学期: 2004年4月12日 - 2004年7月14日

秋学期: 2004年10月6日 - 2005年1月21日

開講クラス:

JL101(初級前半), JL102(初級後半), JL201(中級前半), JL202(中級後半)の4クラスを開講した。上級レベルの学生は全学向日本語講座上級1(UW301)または上級2(UW302)のコースを受講した。ただし, 秋学期にはJL202に相当する受講者が1名しかおらず, その受講者は全学向日本語講座中級2(UW202)と作文個人指導を受講した。

開講時間数:

短期の4コースではいずれも毎日1コマ, 週5コマ, 一学期合計60コマの授業を行った。

受講者数:

表1に受講者数を示す。なお最終成績も一覧にして示した。

2. プログラムの内容

プレースメント・テスト

プレースメントテストの受験者数とクラス分けの結果は表2の通りである。

表1: 平成15年度コース別受講者数および最終成績

(単位: 人)

レベ ル 学 期	JL101		JL102		JL201		JL202		UW301		UW302		合計		通 年 総 計
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
韓 国	-	1	1	1	2	1	2	-	-	-	2	2	7	5	12
中 国	1	7	1	1	-	-	1	-	2	2	-	-	5	9	14
インドネシア	2	1	1	3	-	-	-	-	-	-	1	-	4	5	9
タ イ	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	2	3
ウズベキスタン	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	3
イ ギ リ ス	-	1	-	1	2	-	1	1	-	-	-	-	3	3	6
フ ラ ン ス	-	1	1	2	1	1	-	-	-	-	-	-	2	4	6
ド イ ツ	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3	2	5
ベ ル ギ ー	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	1
ポ ー ラ ン ド	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	2	6
デ ン マ ー ク	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1
ス ウ ェ ー デ ン		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	1
ア メ リ カ	1	1	7	3	3	6	2	-	-	-	-	-	13	10	23
オーストラリア	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2
合 計	10	15	15	15	11	9	6	1	2	2	3	2	47	44	91
成 績 A	5	10	11	12	7	9	6	0	2	2	3	2	34	35	69
成 績 B	2	2	2	2	2	0	0	1	0	0	0	0	6	5	11
成 績 C	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
不 合 格	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
聴 講	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	8

(注: 秋学期202受講者は全学向日本語講座の UW202と作文個人指導を受講した。)

表2：プレースメント・テスト受験者数とクラス分けの結果
(単位：人)

	春学期 (4月7日)	秋学期 (10月1日)
受験者総数	13	26
101の受講者数		6
102の受講者数	7	9
201の受講者数	2	8
202の受講者数	2	1
全学向日本語講座上級受講者数	2	2

プレースメント・テストの結果と学生が受講を希望するレベルが食い違う場合には個別に話し合ってコースを決めた。

コースの概要

教育内容に大きな変更はなかった。概要は以下の通りである。

1) JL101

教科書：『A COURSE IN MODERN JAPANESE, VOL. 1, Revised edition』

授業内容：

音声 文字(ひらがな, カタカナ, 漢字)
ディクテーション 文法ドリル
聴解 ダイアローグ
コミュニケーション活動

2) JL102

教科書：『A COURSE IN MODERN JAPANESE, VOL. 2, Revised edition』

補助教材：『JL102 コミュニケーション活動』

授業内容：

文法ドリル 会話
コミュニケーション活動 漢字
読解 プロジェクトワーク

聴解練習は宿題にし、クラスでは特別な時間を設けなかった。

3) JL201および JL202

教科書：

JL201

『現代日本語コース中級Ⅰ』名古屋大学出版会
『現代日本語コース中級Ⅰ聴解ワークシート』
名古屋大学出版会

JL202

『現代日本語コース中級Ⅰ』名古屋大学出版会

『現代日本語コース中級Ⅰ聴解ワークシート』

名古屋大学出版会

授業内容：

会話・用法練習 談話・文法練習
聞く練習 読む練習
漢字セミナー 作文・スピーチ

4) その他の活動

7月と12月に JL102の学生たちが幹事役となってパーティーを行った。パーティーには、短期留学プログラム担当専門教官、日本人学生も招待した。

3. 試験と成績評価

シラバスに明記されている評価項目と配点は4クラスとも以下の通りである。

Attendance	10%
Homework	10%
Quiz (Kanji)	10%
Class Performance	10%
Oral Test (mid-term)	10%
Written Test (mid-term)	10%
Oral Test (final)	20%
Written Test (final)	20%
<u>Total 100%</u>	

各コースともほぼ毎日ディクテーションや漢字クイズ、宿題を課した。試験は中間と期末に筆記試験と話す試験を行った。

成績は、表1に示す通りである。クラスによって成績は違うが、春学期、秋学期とも全体では8割の学生が総合評価「A」(80%以上)を得ており、「B」(70~79%)は数名だった。「C」は春学期2名、秋学期1名だった。

4. 学生の授業アンケート

各クラスでコース終了時に学生のコース評価アンケートを実施した。学生の評価は全般的にきわめて良好と判断された。授業内容に応じて質問項目を設定しているため、アンケートの内容はコースによって異なるが、各コースに共通して尋ねた質問のうち3つの項目について学生の回答を報告する。

質問1：コースの内容は自分の日本語のレベルに合っていたか。

表3：学生のコース評価

(単位：人)

	101		102		201		202		合計			
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	%	秋	%
1. はい、合っていた	7	9	6	7	8	6	5		26	74.3	22	75.9
2. いいえ、少し難しかった	1		1	2	1	1	1		4	11.4	3	10.3
3. いいえ、とても難しかった			1	1	1				2	5.7	1	3.5
4. いいえ、少しやさしかった	1	3	1						2	5.7	3	10.3
5. いいえ、とてもやさしかった			1						1	2.9	0	
回答者合計	9	12	10	10	10	7	6	-	35	100.0	29	100.0

春学期 秋学期とも約75%が「レベルに合っていた」と回答している。「少し難しかった」と回答している学生は、プレースメント・テストの結果よりも上のク

ラスを受講しているケースが多い。本人の希望をどの程度尊重するのか、という問題が残る。

質問2：授業の進み方はどうだったか。

表4：学生の授業評価

(単位：人)

	101		102		201		202		合計			
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	%	秋	%
1. はい、ちょうどよかった	1	4	3	4	5	2	5		14	40.0	10	34.5
2. いいえ、少し速かった	6	3	2	2	4	4	1		13	37.1	9	31.0
3. いいえ、とても速かった	1		2	3					3	8.6	3	10.3
4. いいえ、少し遅かった	1	5	3	1	1	1			5	14.3	7	24.1
5. いいえ、とても遅かった				1								
回答者合計	9	12	10	10	10	7	6	-	35	100.0	29	99.9

授業進度が「速い」と感じていた学生が4割ほどいたことが分かる。しかし、このことはコースに対する満足度(質問3)に影響していないようである。学生

に対してある程度勉強の圧力をかけること、すなわちdemandingなコースであっても学生たちはそれを肯定的に評価していると思われる。

質問3：コースの内容に満足しているか。

表5：学生の授業評価

(単位：人)

	101		102		201		202		合計			
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	%	秋	%
1. はい、とても満足している	3	7	4	6	7	3	6		20	58.8	16	87.5
2. はい、まあまあ満足している	5	5	5	4	3	4			13	38.2	4	12.5
3. いいえ、あまり満足していない			1						1	2.9		
4. いいえ、全然満足していない												
回答者合計	8	12	10	10	10	7	6	-	34	99.9	32	100.0

(注：春学期に1名の学生がこの質問に回答していなかった。)

学生たちの満足度はきわめて高い。「とても満足」「まあまあ満足」を合わせると、ほぼ全員が満足していた

と言える。特に秋学期は9割近い学生が「とても満足している」と回答している。

5. 今後の課題

クラス分け

学生たちが本国で学習した内容と本プログラムで学習する内容には違いがある。本国で2年程度勉強しても、場合によっては101から勉強した方がいいと思われる学生もいる。学生の自己評価や受講希望コースとプレースメント・テストの結果が食い違う場合の対応はむずかしい。テスト結果だけでなく、学生の希望にも配慮してクラスを決め、修学状況を見ながら最終的にもっとも適したクラスに入るよう個別に指導してきたが、クラス分けにはなお一層細心の注意を払う必要がある。

日本語プログラム全体の改編とその影響

次年度、当センターの日本語プログラムが大きく改編される予定である。短期交換留学生は全学日本語プログラムの中から、週5コマの「標準コース」ないしは週10コマの「集中コース」を選択することになる。「集中コース」を選択した学生が「標準コース」にクラスを変えることはできるが、その逆は授業時間の関係から不可能なので、事前によく説明した上でコースを選択させる必要がある。これまでのような短期交換留学生のクラスがなくなるので、彼らの出席や宿題提出状況等をこまめにチェックすることがコーディネーターの役割となる。